

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 金 5	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(論理学入門) Humanity and Culture (An Introduction of Logic)		
対象年次 1・2年	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:林 大悟 /Eメールアドレス:daigochan@jcom.home.ne.jp /研究室: /TEL: /オフィスアワー:講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日)午後5時40分から6時まで、非常勤講師室にて			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)</p> <p>授業のねらい: 我々がなにげなく使用している言葉の働き、言葉の背後にある論理を探究することは知の探究としての哲学の主要テーマの一つである。本講義では言語や論理に関する哲学史上の知の探究の足跡をたどることによって、我々の言語の論理について考察し、それとともに論理の魅力に触れる。</p> <p>授業方法: 論理学・言語哲学の基礎的な知識について説明し、論理学の練習問題を解いてもらう。講義毎に、講義内容に対する意見・質問・感想等を書いてもらい、それについてコメントする。</p> <p>授業到達目標: 我々の言語の背後にある論理の構造を理解し、論理的・抽象的な思考を身につける。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)</p> <p>授業内容(概要) 知を愛し求めること(哲学)と言語とは切っても切れない関係にある。また論理はあらゆる学問や我々の日常の言語活動の基礎にあるものである。我々の持つ様々な知の種類及び目的について考察し、そのなかの論理学の知を中心に論じる。現代論理学の一つとして命題論理学の基礎的な考え方、その内容を説明し、簡単な論理学の練習問題を解いてもらう。普遍的な知としての論理の世界を考察しよう。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 我々の知の形態 第3回 知の目的とは? 第4回 論理の普遍性 絶対に正しい知? 第5回 論理的って何? 様々な推論 第6回 命題論理学入門 言語と世界 第7回 連言(ーかつ・・・) 第8回 否定(ーでない) 否定の否定は肯定である選言(ーまたは・・・) 第9回 選言(ーまたは・・・) 第10回 含意(ーならば) 第11回 等値と双条件 第12回 論理は一つである 第13回 トートロジーと矛盾 第14回 論理は何も語らない 第15回 授業の総括(試験含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定はしない。プリント等の資料を適宜用意する。		
成績評価の方法・基準等	講義に対する積極的な取り組み状況(配点10%)と学期末試験(持ち込み可)(配点90%)で評価する。		
受講要件(履修条件)	関心を持って講義に臨んでください。論理の面白さを共有しましょう。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			